

岩手自治労連の高橋副委員長(左から3人目)に  
大阪から持参した寄せ書きを手渡しました



# 全国の仲間とともに

東日本大震災

# 震災復興支援

## 大阪自治労連が現地へボランティアを派遣

「希望を失わず、乗り越えていきましょう。阪神大震災の時に支援を頂いた恩は忘れません」「みなさんのがんばりに、私たちも勇気づけられています」と、大阪から被災地へ、メッセージや義援金が次々と届けられています。大阪自治労連は、全労連、自治労連のよびかけに応じて、被災地へのボランティア支援を実施。瓦礫の撤去、被災者の自宅の後かたづけ、救援物資の配送、避難所の運営補助などで連日奮闘しています。

第82回  
メーデー

### 被災者支援、くらしと雇用をまもれ!

プラカードで復興支援を  
アピール(高槻市労組)



「大阪から被災者への支援を強めよう!」雇用とくらしの安定こそが復興の要だ!」のスローガンをかかげて5月1日、第82回大阪メーデーが府下各地で開催されました。

北池田中学校の給食調理員の仲間。左から、大元朋子さん、中谷明美さん(学校給食分会長)、一井久枝さん、笹井郁代さん、中川緑さん



「中学校に給食があるから」と引越して行く市民も

「和泉市では中学校給食をやっているの、隣の市からわざわざ引越してくる市民もいるんですよ」「不登校になっている中学生も、給食が

あるから昼前になると登校してくるんです」  
大阪で学校給食を実施している中学校はわずか1割。8割以上が実施している全国の都道府県の中では最低です。そんな大阪で、和泉市では市内のすべての中学校で学校給食を実施しています。

# チームワークで 中学生に おいしい 学校給食を

和泉市職労  
現業支部 学校給食分会  
和泉市立北池田中学校



「和泉の学校給食のよさを、もっと知らせたい。教育の一環である学校給食をまもり育てるために、これからは職場のみんなといっしょにがんばります」と中谷さんは決意を語ってくれました。

和泉市では以前、調理業務を民間委託にしようとする動きがありました。市職労の闘いで直営を守りました。いまでは和泉市の学校給食は多くの自治体から注目され、最近では韓国からも視察に訪れたといわれています。

「おいしい給食は自校直営だからこそ、できるんです」と学校給食分会長の中谷明美さんは言います。「味付け一つをとっても、でき具合に大きな違いがある調理の仕事には、調理員と栄養士のチームワークとコミュニケーションが大事なんです。毎日、ミーティングを行い、みんなが一体になって、おいしい給食を追求しています」

市立北池田中学校は1学年で9クラスもある大規模校。毎日1100食の給食を調理しています。「今日の給食はなに?」と調理室をのぞきに来る子、配缶のフタを空けて「ワー!これ大好き」と歓声をあげる子、「おぼちゃん、うちのクラスみんな食べたい!ほら、空っぽやろ」と配缶を返しに来る子...学校に調理場がある自校方式なので、子どもたちの反応が毎日、敏感に伝わってきます。

2年生の家庭科では、給食の献立を考える授業も取り入れられています。生徒が考えて、栄養士と調理員が採用した献立を月1回、学校給食のメニューに取り入れます。「今日の献立は2年〇組の〇〇さんが考えました」と校内放送や「給食日より」で紹介しています。「今日の給食おいしかったです。家で作ってみたいから、

女子生徒から  
「つくろひかたを教えてください!」

作り方を教えてください」と聞きに来る女子生徒もいます。学校の近くのスーパーでは、給食のベストメニューやレシピまで紹介されるなど、市民にも好評です。

自校直営のよさを  
もっと知らせたい